

高知県土佐清水市大岐の浜における観光客増加を目的とするリゾート地の計画

高知工科大学 システム工学群 建築・都市デザイン専攻
1250020 井ノ上 虎岳
指導教員 重山 陽一郎

1.対象敷地



図1 大岐の浜の航空写真
(国土地理院地図に筆者加筆)

対象敷地は、高知県土佐清水市の大岐の浜である。大岐の浜は全長約2 km に渡る曲線状の砂浜である。



図2 大岐の浜全景 (図1の赤丸より見る)

周りに人工物がなく砂浜の背後には緑があふれる美しい砂浜である。また駐車場から砂浜へ至る道は森を抜けた先に見渡す限りの太平洋の海が望めるシークエンスが素晴らしい場である。

1.1 土佐清水市全体の観光の現状

現在土佐清水市では観光客数の減少が深刻な問題となっている。観光客数をピーク時と比べると約20万人減少している。

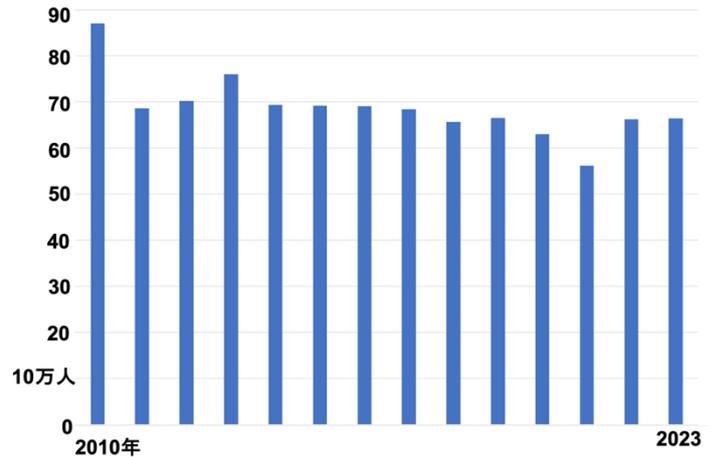


図3 観光客数の増減

1.2 大岐の浜の観光としての立ち位置



図4 土佐清水の主要な5つの観光地

大岐の浜は5四万十市から土佐清水の5つの観光地へ行く時に最初に通る観光地である。

1.3 大岐の浜の現状

図4のように個々の観光地が分散しており、足摺岬や竜串海底館に急ぐ人が大部分であり大岐の浜では国道からの景色を一瞬眺めるだけでそのまま通り過ぎられるのが現状である。

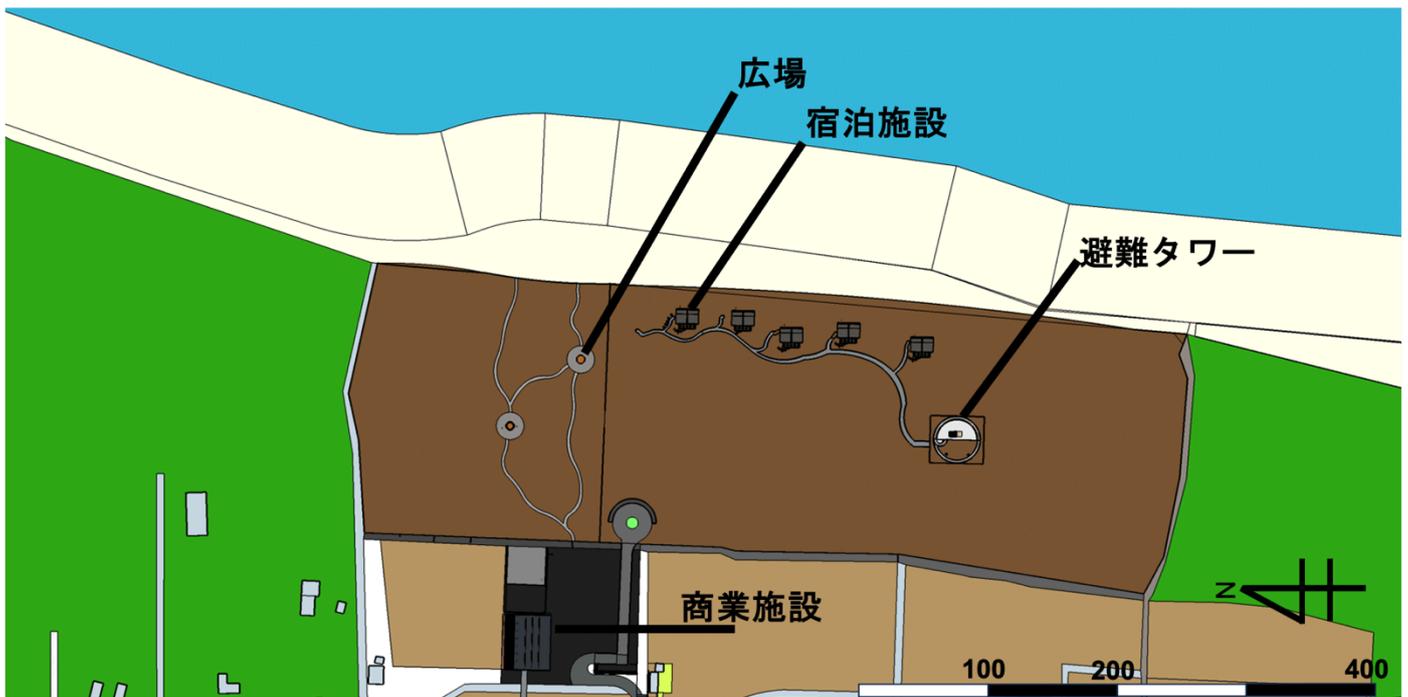


図5 全体の施設の平面図

1.4 大岐の浜のアクティビティ

大岐の浜はサーフィンの聖地として多くのサーファーから楽しまれているが主要なアクティビティがそのサーフィンしかない。また名勝桂浜のように飲食店や商業施設がなく地域の方も立ち寄る魅力がない。

1.5 アクセス



図6 大岐の浜の入り口
手前に左に行く道が大岐の浜への入り口

大岐の浜への入り口は幅が1m程しかなくどこに入口があるか分かりにくくなっているのが素通りされる一つの原因になっている。

1.6 大岐の浜の環境

大岐の浜に向かう際に自然林を抜ける必要があるがその動線が一直線になっており海から吹き付ける風や砂が直接吹き付ける形になっている。また近年予想されている南海トラフ地震では約15mの津波が予想されており自然の脅威への対策が必須である。

2.目的

これらを踏まえ、観光客の方が最初に訪れる場所としてふさわしい魅力ある観光地の一つにするべく、リゾート地の設計を提案する。

また観光客だけでなく地域の方も利用できるような飲食店や商業施設を計画し、地域の方も立ち寄る理由を作るとともに地域の活性化を図る。さらに自然の脅威に対策し、分かりやすい入口の整備や自然林をより楽しめる動線づくりを目的とする。

3.設計方針

1.) 宿泊施設に関して

美しい景色を壊さないような宿泊施設の設計を目指す。

また宿泊施設の構造には日本らしさを取り入れて観光客に日本文化をより楽しんでもらえるような設計を目指す。

2.) 地域の方とサーファーの方の為の施設について

地元住民も使用できる飲食店や商業施設としてカフェと定食が楽しめる施設を提案する。また商業施設としてサーフィンの貸し出しができる施設を作る。

3.) 動線について

車で来た観光客などに対し入口をわかりやすくし入りやすい道を整備する。

また自然林内部の道に関してはより美しい自然林を楽しめるような設計にし、海からくる風や砂にも対策をした道の設計を目指す。

4.) 避難タワーの設計について

近年予想されている南海トラフ地震に対応した津波避難タワーを設計する。

津波避難タワーの用途だけでなく背の高い建造物を活かし展望台としての用途も持たせる。

4.設計

1) 宿泊施設の設計

美しい景色を壊さないため宿泊棟は、はなれのような建て方にし、砂浜から少しはなれて林の中に建てる事によって海岸から眺めた時に宿泊施設が目立たないようにしている。平家にする事で景観を壊さないような作りにした。また規模に関して周りの木々が約15mの高さでありこの宿泊施設の高さを約5mにすることで目立たないようにした。延べ床面積140㎡となっている。

宿泊施設の内装には囲炉裏や丸窓、縁側を設けることで日本らしい設えにし縁側からは太平洋の美しい海を見渡せるような作りになっている。

そして囲炉裏では魚を焼いて食べるなどの体験もできるようにしている。

2.) 地域の方とサーファーの方の為の施設の設計

地域の方にも気軽に利用できるような施設として飲食店としてカフェ、商業施設としてサーフィンボードの貸出の施設を設計した。



図11 商業施設（受付）

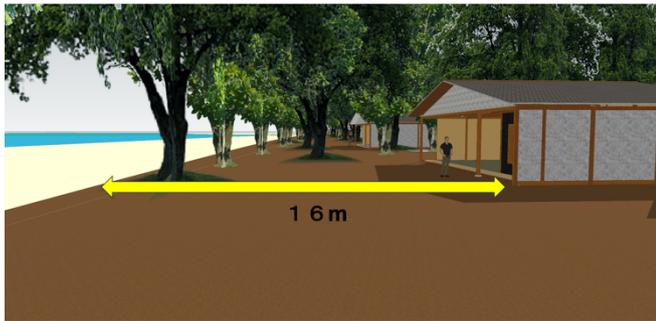


図7 宿泊施設の配置

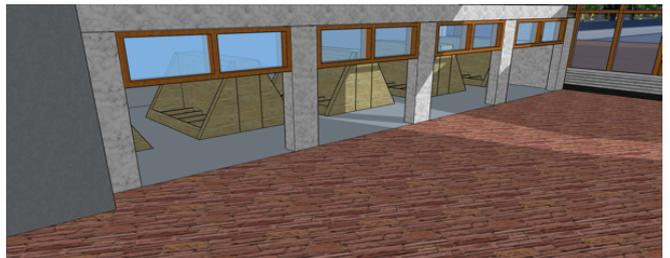


図12 商業施設（ボード貸し出し）

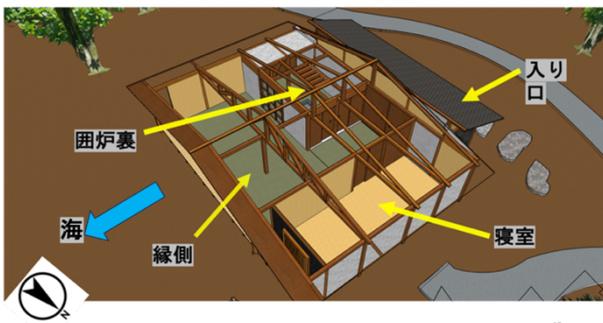


図8 宿泊施設の内装



図13 商業施設（カフェ）
サーファーの為、幅の広い設計

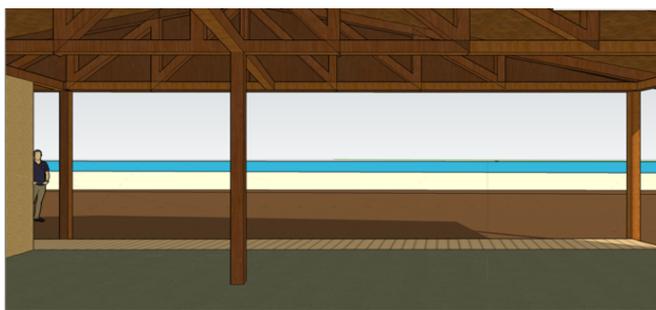


図9 縁側から見た海の景色



図10 砂浜から宿泊棟を眺めた景色



図14 屋外カフェの様子
屋外でも飲食を楽しめる設計

3) 入り口



図 15 入り口

幅を広くし道路の面積を増やす事で目にはいやすくしている。

3.1) 乗り降り場

観光客用の乗り降り場は使いやすいように円形のものにし、降りてすぐに浜に向かえるように設計にした。

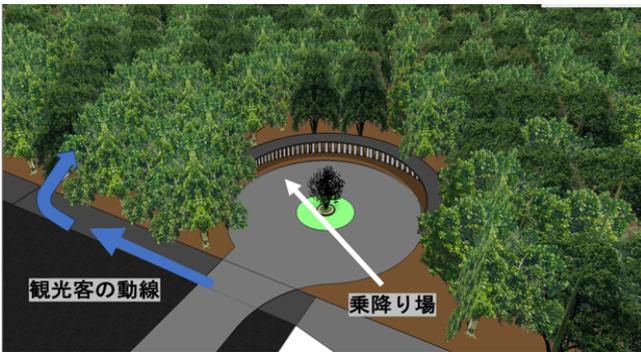


図 16 円形状の乗り降り場

3.2.) 自然林内部の動線



図 17 自然林の設計

より自然林を楽しむように広場を作ることによって一直線の道ではなく湾曲した道ができてより様々な景色が楽しめるようになっている。



図 21 全体の完成予想図

4.) 避難タワー



図 18 避難所（展望台）の設計

森の中に建てることによって砂浜やカフェの施設から見上げた時に目立たなくなり景色を阻害せずかつ用途を満たす設計にした。またスロープをつける事によってお子さん連れの方や高齢者の方にも配慮した作りをしている。そして避難タワーの用途だけでなく展望台としても機能して天場から太平洋が眺められるようになっている。



図 19 (右) 展望台から海を眺めた時の景色
図 20 (左) 砂浜から避難タワー眺めた時の景色

5. まとめ

今回のリゾート設計により今まで通りすぎられていた大岐の浜の魅力が伝わるとともに、観光客も増加すると考える。また地域の方も利用できる施設も設計した事によってさらにリゾート地としての賑わいを見せていくと考察した。

6. 参考文献

土佐清水市統計

<https://www.city.tosashimizu.kochi.jp/kurashi/section/tourism/11584.html>